

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	宇都宮大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	コクリツダイガクホウジンツツノミヤダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	国際インターンシップ
	学部・研究科等名	全学部・全研究科対象
	担当教職員名・役職	松井 真 (留学生・国際交流センター・コーディネーター)阿部 好子 (留学生・国際交流課長)上野 量才 (留学生・国際交流課 国際交流企画係長)
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	16
	受入企業等数	9
	受入企業等名	観光業、イベントコンサルタント業、日本語学校業、農土木コンサルタンツ業、各種製造業、販売業実習先一部を体験談としてWebサイトに掲載： <a href="http://intl.utsunomiya-u.ac.jp/study/study07.html">http://intl.utsunomiya-u.ac.jp/study/study07.html</a>
	インターンシップの分類	3.海外インターンシップ,5.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ,6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	海外企業や工場、海外の大学等が主な研修先。各企業において現場立会いや作業、会議参加、調査・データ処理、資料作成、研究実習等を行っている。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している,9.その他
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	副専攻プログラムのLearning+「グローバル人材育成プログラム」履修科目に含まれている。
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	学部1年次~4年次、大学院1年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習に係る事前研修参加や提出物状況、企業担当者からの評価資料をもとに、単位付与、評価を行っている。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している,5.その他
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	海外渡航前危機管理オリエンテーションを実施し、海外滞在時に必要となる諸手続きの説明及び想定される危機についての注意喚起を行う。
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている,4.その他
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	企業の実習担当者に評価書類を作成願い、学生にフィードバックしている
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ中、学生はメールで定期的に教職員に中間報告を行う。年に一度可能な範囲で、教職員が海外実習地へ視察に行く。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	・ビジネスマナー研修参加・実習参加は面接により決定するが、面接前後に学生自身で企業研究を行う・実習企業からの事前課題を行う・成果目標等については教職員と随時相談
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	・実習中の業務日誌作成・実習最後に企業で総括・帰国後、報告会の実施(教職員や学生、企業担当者が出席)・企業からの評価書をもとにフィードバック
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップの着離任報告。他、上記記載のとおり。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	4.その他
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	参加申請時から報告会まで複数回に渡って面談指導を行い、学生の行動意識の変容について確認を行っている。
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	参加申請・面接時に学生の希望を聴取、大学としての成果目標を提示。実習後に成果報告会実施。また、受入企業担当者による「社会人基礎力評価シート」を学生に共有。
要素	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	2週間以上
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	

⑤	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	80時間以上の実習を原則としており、これまでの実習は2～5週間で 行っている。実習期間は学生と企業担当者の希望により決定する。
要素 ⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の 最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計 していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施し ている。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導く など、大学として必要な支援を行っている
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	大学・学生・企業の3者間でメールや面談により実習内容やスケ ジュールを設定。県内事業所のある企業については、学生を企業へ 帯同し面談・企業見学を行う。企業受入担当者による評価実施。報告 会に企業担当者も可能な限り出席していただいている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されて いるシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問 い 合 わ せ 先	大学等名	国立大学法人宇都宮大学
	担当部署名	留学生・国際交流課
	担当者役職名	留学生・国際交流課 国際交流企画係長
	担当者氏名	上野 量才
	電話番号	028-649-5100
	メールアドレス	uiintern@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp